

令和2年4月
スタートの新称号！
いまがチャンス！

社会教育課程履修案内

「社会教育士」を取得しよう！

公務員・教員・地域に関わる仕事を目指すなら！

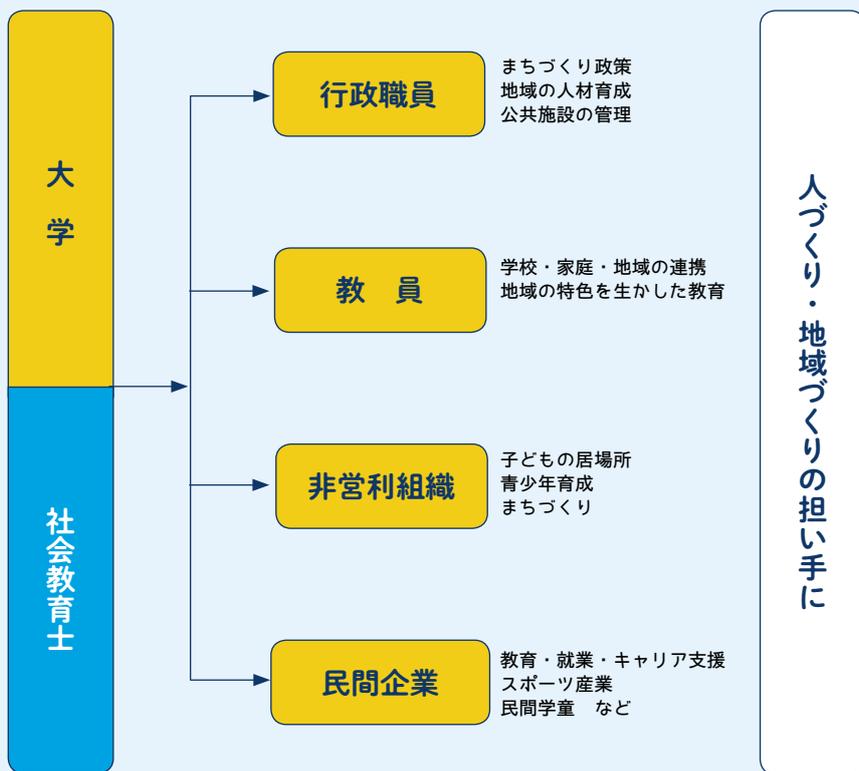
社会教育士とは…

NPOや企業等の多様な主体と連携・協働して、社会教育施設における活動のみならず、環境や福祉、まちづくり等の社会の多様な分野における学習活動の支援を通じて、人づくりや地域づくりに携わる役割（文部科学省 HP より）

あなたは
どのコース？

社会教育士キャリアチャート

各都道府県や市町村の教育委員会から任命される「社会教育主事」をはじめ、一般行政職、社会教育指導員、民間企業や教育機関など、様々な分野で「社会教育士」の活躍が期待されています。



社会教育課程を履修することで「社会教育士」が取得できる。 3年、4年からでも履修可能。

社会教育課程で身につくチカラ

①公務員に必須の〈地域・社会の課題解決力〉が身につく

社会が抱える多くの課題を解決するための、「現状を分析する力」「企画立案する力」「学習・スポーツ・文化等の活動を支援する力」「環境整備とネットワークを構築する力」が身につきます。

②世代を越えた〈コミュニケーション力〉が育まれる

社会教育課程では、世代を越えた地域の人々（子ども、大人、高齢者）と関わる実地体験ができます。

③教育にかかわる仕事に必要な〈地域から学校・子どもを見つめる目〉が育つ

将来、教員や青少年に関わる仕事を目指している人には、教育者に必要な、地域の視点から学校・子どもを見つめる目を育むことができます。

④まち全体を見通す〈仕事力〉を創り出す

住民支援、施設の運営、まちづくりなど、様々なボランティア活動を通じて、まち全体を見通す仕事力を創り出すことができます。

リアルな体験型学習と現場での学びが育む“実践力”

学習モデル **13科目26単位**

学年	テーマ	現場体験・実習	講義
1年前期・後期			生涯学習論(教養)
1年後期	学習施設の見学	教育委員会・生涯学習施設と連携(神奈川県、川崎市、横浜市、相模原市)	地域デザイン演習I 社会教育論
2年前期	子どもの学びと遊び	川崎市高津区子ども夢パーク フリースペースたまり場	地域デザイン演習II 生涯学習支援論I
2年後期	大人の新しい学び	東京都渋谷区シブヤ大学	生涯学習支援論II 地域デザイン演習III 社会教育経営論I
3年前期	若者によるまちづくり(地域協働を創る)	横浜市・神奈川大学 かながわユースフォーラム 企画運営	地域デザイン演習IV 社会教育経営論II 社会教育実習I
3年後期	実習を通じたキャリア教育	国立青少年教育施設市町村教育委員会の生涯学習課	社会教育実習II 社会教育演習



学生の声

考える力、ディベート力、プレゼン力など、総合的な人間力を培う



松本海斗
(人間科学部人間科学科4年)

私が社会教育課程を履修してよかったことは、将来必要になってくる総合的な人間力が身についたこと。私が身に付けた人間力は3つある。

まず1つは考える力。授業内での地域の課題解決など、主事として何が求められているか、何をすべきかということを考える中でこの力が身についた。

次にプレゼン・ディベート力。社会教育の授業では発表する機会がとて多く、自分の伝えたいことを時間内にまとめて伝える力がついた。また自分の考えをもつたうえで相手の発表を聞くので、相手の考えに対する疑問点を投げかけ、議論していく力がついた。

最後に、人のために自分が何かできるか考えられるようになった。授業内でボランティアに参加の機会があり、活動の際に必要な気配り、行動力を学ぶことができた。またハンディキャップをお持ちの方が暮らしやすいように、差別はいかにしてなくせるかなども考える機会があり、自分に何ができるかをじっくり考えさせられた。

地元で掴んだ成長の機会



町田和裕
(経済学部経済学科4年)

私は地元である埼玉県飯能市の社会教育施設「埼玉県立名栗げんきプラザ」で2019年8月に合計10日間の実習を行なった。

実習では、2日間の通常業務の手伝いと二回のキャンプに参加した。実習内容としては、施設の普段の姿や仕事について知れただけでなく、職員の方々とお話しする機会も豊富で、とても良い勉強になった。10日間の中で最も印象に残ったことは二回のキャンプであり、学んだことも多かった。キャンプは小中学生を対象としていたため、子供と関わる楽しさや責任を感じ、スタッフとしての行動や視点の重要性に気づいた。また、事業運営の手伝いを通して、一つの事業が見えない所で多くの人の支えによって成り立っていることや、社会教育という立ち位置における子供の利益を最優先にする考え方を学んだ。

実習を通じた様々な体験や人との出会いは、一つ一つが良い刺激となり、自分の価値観や視点にも変化があった。今後も自分の成長のために主体的な行動を心がけていきたい。

8日間の生涯学習センターの実習



伊藤さあや
(外国語学部国際文化交流学科4年)

私は地元の静岡県三島市にある三島市民生涯学習センターに8日間実習に行かせていただいた。実習を通じて特に感じたことは、生涯学習センターが地域にとってとても重要な場所となっているということだ。

生涯学習センターを中心に多種多様な事業に参加する人々を見て、「一人ひとりが生涯にわたって様々な学びを続けていく」という生涯学習の本質を、身をもって学んだ。また、生涯学習センターが、地域の人たちのために「サポート」の役割に徹しているということにも気づいた。子どもたちが多種多様な経験を通して、多くのことに興味や関心を持てるよう、その機会の創出を支援したり、地域の人たちの生活がより良いものになるような事業を企画運営したりと、大学の授業だけでは学ぶことのできない実際の生涯学習センターについて知ることができた。

今回の実習で学ばせていただいたことを、これからの経験に活かしつつ、私も人々を支援していけるよう今後も学んでいきたい。